

シート（運転席）位置が運転時の視野に与える影響について

桔梗ヶ原病院

園原和樹

○抄録○

【目的】 昨年の学術集会において視野障害者における運転時の視野可視化に関する報告を行った。もとになったデータは、ドライバーが正しいドライビングポジションを取り運転席（以下、シート）に座った状態で視野角度を測定しているため、シート位置の違いが運転時の視野に与える影響を想定できていないとの課題が存在した。今回、我々はシート位置が運転時の視野に与える影響について検証した。

【対象と方法】 特定の車両を対象として、検査者 5 名により、シート位置を変えて、車内 3 箇所の視野角度を測定した。評価したシート位置は(1)正しいドライビングポジション、(2)シート最上部、(3)シート最下部、(4)シート最後部、(5)シート最前部であり、視野角度の測定部位は(a)中心から左サイドミラーまで、(b)中心から右サイドミラーまで、(c)フロントガラス上縁から下縁までとした。

【結果】 正しいドライビングポジションを基準とした視野角度の測定差異は、左サイドミラーまでが 5.8° 、右サイドミラーまでが 3.8° 、フロントガラス上縁から下縁までが 3.0° であった。

【結論】 シート位置の違いが視野角度に与える影響は最大 5.8° であった。今回の検討は、検査者が自分自身を対象として視野角度の測定しているため、座高による影響を排除できていないことが課題である。今後は被検者を一人に限定し、複数の検査者により視野角度の測定を行うことが望ましい。